

		内部要因	
		比較優位（強み） (Strengths)	比較劣位（弱み） (Weakness)
		<p style="text-align: center;">活動的な若手の研究者がいる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓若手研究者が充実している (13) ✓国及び関係機関とのネットワークがある (13) ✓行政、他機関など外部とのネットワークが充実している (13) ✓実践的な研究を行おうとしている (13) ✓研究に関して外部資金を獲得することができる (12) ✓阪神・淡路大震災の教訓を伝えようとしている (12) ✓経験豊かな多分野の専門家が充実している (11) ✓防災の専門家で多くのネットワークを持っている (11) 	<p style="text-align: right;">仕事を選べない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓震災資料の活用が不十分 (14) ✓組織のリーダーが常勤でない (12) ✓経営者がいない (11) ✓役所色が強い (11) ✓学芸員がいない (10) ✓研究サポート体制が弱い (10) ✓情報発信量が不十分である (9) ✓人事異動によるデメリットとして長期展望がもてない (9) ✓防災未来館、ひと未来館に共通した理念がない (9) ✓運用の固定費が大きい (8)
外部環境	成長機会 (Opportunities)	<p>(成長機会＋比較優位)</p> <p style="text-align: center;">自治体や関係機関と共に考えることにより研究成果の実践性を高める</p> <p style="text-align: center;">委員会活動等を積極的に、その立場をフルに活用する</p> <p style="text-align: center;">地域への働きかけ、災害への正しい理解を促す機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓災害に直面している自治体職員の需要は伸びる (28) ✓実践的な防災（減災）対策の研究 (26) ✓地震の起こりうる地域の住民、市民に対する防災教育や教材開発の需要が伸びる (21) ✓大学自治体の研修機関、NGO との連携が増える (15) ✓小中高生の団体利用への展示及び防災教育は安定した需要がある (14) ✓防災計画を持たない企業のニーズが伸びる (11) <p style="text-align: center;">東南海・南海地震対策、ここ1、2年が勝負。</p>	<p>(成長機会＋比較劣位)</p> <p style="text-align: center;">研究サポート体制を強化し、研究エフォートを上げる</p> <p style="text-align: center;">予算執行の自由度と執行手続きの簡略化</p>
	致死脅威 (Threats)	<p>(致死脅威＋比較優位)</p> <p style="text-align: center;">巨大災害の減災戦略研究の実施、敵を明らかにして具体的に取り組む</p> <p style="text-align: center;">外部資金を積極的に獲得する、他機関との共同研究を推進</p> <p style="text-align: center;">阪神・淡路大震災の経験・教訓を一般化し、将来の減災戦略につなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓阪神・淡路大震災に関する研究のニーズは減少する (23) ✓人と防災未来センターは国や県のお金に依存している (22) ✓展示需要は減少する (18) ✓一般市民の需要は減る (11) <p style="text-align: center;">学会でのパフォーマンスが不十分？</p> <p style="text-align: center;">実践的を重視するあまりの研究の質の低下、学術的価値の喪失</p> <p style="text-align: center;">5年10年を見据えた研究ができるとは言えない</p>	<p>(成長機会＋比較劣位)</p> <p style="text-align: center;">阪神・淡路大震災の経験・教訓を風化させないための働きかけ</p>